

二郎（気象庁）、山岬正紀（気象研究所）、松野太郎（東大）が担当する旨報告があり、それぞれ承認された。

7. 気象集誌における著作権の扱いについて

村上理事から資料にもとづき説明があり、11月中までに意見を提出願ひ、次回の常任理事会で決めることとなった。

8. 昭和62年度予算案（第1次案）について土屋会計担当理事から資料（第1次案）にもとづいて説明があり、最終案は62年2月1日現在の会員数を

基礎として作成するので、それまでに意見があれば提出願ひ、最終案を再度理事に照会することで了承された。

9. 会員の新規加入の承認について

個人会員巻島秀男ほか8名の新規加入が承認された。

10. その他

河村天気編集委員長から編集委員に甲斐憲次（気象研）を追加したい旨報告があり承認された。

新企画のお知らせ

天気編集委員会では、誌面を興味深く、又、読み易くするために、今年度からの様々な企画を検討して来ましたが、一つの方向として、“情報誌”としての側面を強化することにしました。

このような側面を持つ企画として、次の

- ① インタビュー記事「素顔'87」
- ② 最近の研究から
- ③ 情報ファイル

の3つの企画を2月号から行うことに決めました。

最初の“インタビュー記事”とは、日本の内外で活躍している著名な気象学者の人達に、「何故、気象学を選んだのか?」「何が今一番面白いのか?」などの質問を浴びせ、答えてもらおうというものです。

2番目の“最近の研究から”とは、ともしれば従来の

解説は、全ての分野の review をしなければと気負うあまり、原稿を集めるのも大変でしたし、著者も大変でした。この企画は、“今、自分が研究していて、こんな面白そうな事が出て来た、とか、最近、こんなことが、自分の分野で話題になっているよ”というような、研究者の個人的な興味を1ページ程度で述べてもらおうというものです。第一線で活躍されている会員諸兄・諸姉の投稿を待っています。

3番目の情報ファイルは、従来の NEWS の拡張で、種々の publication 等の中から、有益な情報を探して編集してゆこうというものです。

誌面を良くするも悪くするも会員各位の協力次第によります。今後共よろしくお願いします。

（天気編集委員会）

編集後記：本号から、杉村行勇氏に代わって、私が編集委員長をお引受けすることになった。かつて私が本誌の編集にたずさわっていた時から、すでに十年以上の時日が経過している。この間に会員数（とくにA会員）の増加、会員層の多様化など、本学会の会員構成が変化した。この数年、これに関連して、本誌の「会員の広場」欄にも本誌に対するいろいろな意見が寄せられている。この他に私が個人的に耳にした会員の声を要約すると次の3点、すなわち、(1)天気を読みやすくする、(2)気象学関連情報の充実、(3)気象学周辺の関連分野の知見の紹介、が主なものである。

編集委員会では、これまでの編集方針の基本線を引きつぐとともに、これらの要望にも徐々に対応をはかり、より充実した内容の雑誌をお届けするよう努力したい。その第一段階として、新たに「最近の研究から」、「情報ファイル」、「素顔'87」の三つの欄を設ける他、「会員の

広場」など既設の欄も、従来の枠を広げて自由度を持たせ、内容重視の編集を行う方針で、会員からの自由投稿以外に会員などへの依頼原稿もお願いすることが多くなると思われる。

本誌は、会員の御協力によって成り立っている。お気づきの点について、御意見・御要望をお寄せいただくと同時に、論文や解説をはじめ、いろいろな欄に積極的な御投稿をお願いする次第である。

なお、本誌は会員へのサービスを重視しているが、印刷会社との契約で、原稿の印刷所への入稿日が定められている。そのためぎりぎりの線として、編集委員会では、一般の原稿は、発行月の前々月の末日を締切日としている。この他、会員に対して緊急を要するお知らせ等で、印刷頁1頁以内の短かいものに限って、発行月の前月の末日まで受け付けが可能である。御協力を願いたい。

（河村 武）